



## とうきょう すくわくプログラム

### 2024年度活動報告書

#### 八王子西片倉雲母保育園



#### テーマ【自然や生物に関する探究活動と表現、他園児との交流活動】

##### 設定した理由・背景

- ・自然や生き物とのふれあいを通して、園児の興味・関心を探り、主体的に発見や表現をする機会の創出を目指す。
- ・他園の園児や職員との交流を通して、普段関わりのない人との対話を促す。

##### 用意した環境設定

- ・遠足、お泊り保育交通費・給食費・宿泊費・施設利用費

#### 活動のあゆみ

- ・5月～7月：姉妹園交流
- ・6月：公共機関利用の練習、散策
- ・8月：お泊りキャンプ実施
- ・9月～：お泊りキャンプの感想や意見交換を行う
- ・11月：姉妹園交流
- ・1月：姉妹園交流

#### ※探究活動の実績※

①どんな問いかけから始めましたか？→どうしたら他園の子どもたちと仲良くなれる？何して一緒に遊ぶ？

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

→公園で一緒に遊ぶ、一緒にリレーをする、などの意見が上がり、自然散策やリレー等の活動を促した。

③活動中の子どもたちの姿・声、

→姉妹園交流を行う中で、他園の子どもたちが咲いている花や、見たことがない草を「これは、何？」と尋ねたり、石をひっくり返して虫が出てきたのを発見していたりするのを見ていて、一緒になって行う様子が見られた。

→お泊り保育では、自然が沢山あることに、怖いという子どもや、魚がいるかもと興味がある子がいた。木が沢山あり、川が流れていて、そこに魚やカニもいる事を伝え、他にどんな生き物がいると思うか？どんな草や花が生えていると思うか？ということを考えてから、発言を受けて調べてみようと呼びかけた。川遊び中には、水の流が速いところと遅いところを発見して、水を堰き止めたり、水を汲んでみたりして、どうしたら水の流をゆっくりにできるか話し合う姿があった。そして、帽子を使うと沢山の量の水を集められることに気づき実際に帽子を使って実践する様子が見られた。更に水に濡れた帽子を被ってみて、体温が下がることに気づき、涼しくなったと他の友だちにもやってみるように勧める姿が見られた。

④終わりの時期の姿・まとめ

大自然の中で遊びを経験しながら、不思議に思うこと、発見したことを子どもならではの視点で考え、相談して、どうして？をさらなる行動へ展開していく姿が見られた。お泊り保育終了後に自園にもどり、近くの公園や散歩道で生えている植物に関心を持つ様子が見られるようになった変化を感じることができた。



散策路を歩きながら、蜘蛛の巣を発見したり、川の流の早さについて話あっている姿が見られた。



園庭に生えていない草だね。なんていう草だろうか？探す姿が見られた。



帽子で水を汲みだしている様子

**まとめ** 自然豊かな環境を子ども自らが観察して、なぜ？と不思議に思ったことや感じたことを子ども同士伝え合ったり、知り合って間もない他園児とともに行動することで、子どもたちが学びだす姿に繋がることを改めて知る機会になった。園と違う場所での活動に不安感もあったが、子どもは順応性が高い為、開放感も手伝い、積極的に行動していた。同じ戸外でも公園とお泊り保育キャンプでは何が違うのかを考える機会になったり、他園の園児と関わる機会が増えたりと、子どもたちに良い経験になり子どもたちが一回り大きくなったように感じた。自然の中で発見したものを引き続き、興味として繋げていき保育で探究の輪を広げていこうと思う。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2024年度活動報告書

八王子西片倉雲母保育園



#### テーマ【 空を飛ぶもの 】

##### 設定した理由・背景

空を飛ぶものに対して、普段から子どもたちが強い興味を示していたため。空飛ぶものは何があるか、どれくらい飛んでいるのか、また人間はなぜ飛べないのかを疑問に思っているため、これらの探求から始め、ものが飛ぶには何が必要かを考えていく。

##### 用意した環境設定

・折り紙・ラシャ紙・画用紙・和紙・ビデオカメラ・デジタルカメラ・プロジェクター・飛行機図鑑（乗り物など詳細が乗っている物）・タブレット・メジャー（飛距離を測る）  
他

#### 活動のあゆみ

- ・12月：空を飛ぶ生き物や飛行機をみてどうして飛べるのかを考える。
- ・1月：生き物や飛行機について調べてみる。
- ・1月～2月：飛行機の作り方（折り紙）を調べてみて、もっと飛距離を伸ばせないかを考えながら折り方や飛距離を記録する。
- ・2月～：互いに競い合いながら、どうすればより飛んでいくのかをさらに考える。

#### ✽探究活動の実績✽

↓ 空を飛ぶものは何があるか、どれくらい飛んでいるのか、人間はなぜ飛べないのかを考え、意見を出し合ってもらうことから探求を始めた。

↓ 意見を出し合ったのちに、空を飛ぶものには何があるかを保育者と調べ、飛距離・飛行時間の違いを比較した。まずは鳥を見てどうやって飛ぶのかを観察し、次に自分たちがジャンプする距離を調べてみた。走ってから飛んだ方が遠くに飛べるという話しになり、実際に子どもたちも走ってからジャンプして、勢いをつけた方が長く飛べることに気付くことができた。

ものが飛ぶために必要なことを発問したところ、飛行機の写真を見て考えたいという子どもたちからの要望があり、調べた結果、飛行機はまっすぐにしないと飛べないことに気が付いていた。その発見により、身近で実験ができる紙飛行機を使って飛距離を伸ばす工夫を考え始め、様々な折り方で飛ばして飛距離を測った。さらに記録を伸ばすにはどうすればよいかを予測し、折り紙だけではなく、様々な素材の紙を用意して子どもの発見やアイデアに対応した。

紙飛行機での実験では、失敗を繰り返す中で予測と実験を繰り返し、知りたい答えに近づく体験をすることができていた。

4、5歳児合同で行っていたため、分からないことがあった時には5歳児が4歳児に教え、反対に5歳児が困っていることがあった時には4歳児が助ける姿が少しずつ見られるようになった。



どれだけの高さが飛べるかな？



走ってジャンプしたらどれだけ跳べるかな？



折り紙の折り方を動画で見てもいいかな？

## まとめ

興味のあるテーマをピックアップして探求・目標を設定をしたことで、最後まで取り組む気持ちを継続させることができた。空飛ぶ飛行機を制作してはどうかと提案してみると始めは適当に作っていた子どもたちが多くいたが、とても丁寧に折って、6m飛ばす友だちの姿を見て、どうすれば良いのかを聞き合う場面が見られた。その中で、試して失敗することを繰り返して答えにたどり着く経験もできた。身近に実験できる紙飛行機を使って、調べる、観察する、仮説を立てる、実験するを繰り返し、子どもたち自身で結果にたどり着くことができていた。保護者からも「そんなに飛ばせるのか」と驚かされている姿が見られた。

子どもたちから発せられる何気ない一言が発見に繋がり、子どもの「やってみよう」に繋がっていくことに保育者も気付いた。保育者が細かいことを指示せずとも目標を明確にして、達成感と挫折を同じ割合で経験すると子どもたちは自然と「次は」に向かっていける力を持っていることを改めて感じた。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2024年度活動報告書

八王子西片倉雲母保育園



#### テーマ【 生き物 】

##### 設定した理由・背景

動植物に親しみを持って、「大切にいつくしむ」とは  
どういうことなのか実体験し、今後の生活に活かして  
いきたいと考えたため。

飼育を通して、話し合いや協力していく経験をしてもら  
う。

##### 用意した環境設定

・ハムスター2匹・ゲージ2個・餌・廃棄野菜（園か  
ら出たもの）・枯草・記録用カメラ 他

#### 活動のあゆみ

- ・11月～：飼育のルールを作る。  
例) ゲージの清掃は週に1回金曜日に行く。  
乳酸菌サプリは一日1粒
- ・12月～：ハムスターの飼育準備、開始  
(観察、ハムスター用の餌と、廃棄される食べ  
物(野菜)を食べたハムスターの成長の差を比  
較して記録する。)

#### ※探究活動の実績※

↓ 適切な掃除方法や餌はなにか、ハムスターの餌として売られているものとそうでないものを食べた時にどの  
ような成長を遂げ、どんな変化を見せるのか、ハムスターは熱が出るのかについてから、探求を始めた。

↓ ハムスターを飼育するに当たり、掃除などのルール、餌は何を食べているのかをタブレットで調べ、夕方  
にお世話することやハムスター用のご飯があることを知った。園で適切にお世話をするには、どのようなルー  
ルを作り、守るべきなのか考えることを促した。ホームセンターへ行きハムスターに合うゲージや餌を店員さん  
に聞きながら購入した。

ハムスターの飼育をしていく中で、気になったことなどをノートにそれぞれ記入した。ゲージを噛む様子に気  
づいた時には、ゲージを噛むのはストレスが溜まっていることが原因であることを知り、ストレスの解消方法を  
話し合った。運動がストレス解消に繋がるのではないのかと意見が出たため、お世話の時にゲージの外に出して  
運動をさせるようにしていった。

ハムスターの体温は何℃なのかを知る為に、非接触の体温計でハムスターの体温と子ども達の体温を測った。  
体温が36.3℃で人間と同じくらいだと知り、熱が出た時にはどう処置するかを考えてもらおうと、冷却をする等  
の案が出た。(熱が出ることはなかったため、出た案を実践していない。)

排尿をトイレで行っていなかった時には、ゲージの中の物をすべて洗い、匂いを消したり、家の中でしていた  
糞尿をトイレへ入れてお世話をしていた。排尿をトイレで行うようになると、拍手をして喜んでいた。

2つのチームに分けて、交換日記のようにその日のハムスターの様子をお世話した人が書くようにしていくと、  
観察を最初の頃よりもしていた。話し合いをする時には、その中で出た疑問点を話し合うようにしていくと自分  
の案を出す様子が増えた。



初めてハムスターと対面



みんなで約束事を決めています。



お世話の仕方をみんなで確認し  
ながら取り組んでいます。

## まとめ

ハムスターを飼育するに当たり、最初は「かわいい」の気持ちが強く見られたが、お世話を通じて、気づくことや気になることが増えていったように感じた。例えば、熱やトイレなどの問題を一つずつ解決していくことによって、人との違いはあるのか、普段の生活では考えることが少ない事も深く考える機会になっていた。

餌をあげていたにも関わらず、エサがなくなってしまいどうすれば良いのかを意見を出し合ったときに、以前に説明していた内容を覚えていて、「野菜を乾燥させてあげたらいい」と意見が出たため、エサのお皿に入れた。初めての試みの為、子ども達も緊張した様子を見せていたが、エサ入れからなくなって、ウンチもいつもと変わらないものだった。

困難に直面した時に子どもたちの持っていた少ない知識の中から答えを導きだそうとする姿が見られ、保育者も驚かされた。答えが用意されている毎日を過ごすことが多いが、大人が答え出すことが知識として入っていくのではなく、「知っている」を実践して初めて知識になるのだと感じさせられた。日常生活の中でも選択できる質問を投げかけ、「知っている」を増やし知識が増えるような関わりをしていきたいと思った。

生き物を飼育することが初めてだった保育園の為、子どもたちが保護者に報告することが早かった。夕方に世話をしている様子を見て「頑張っているね」と励ます声をかけて下さった。お迎え時にも子どもが報告することが多かったので、保護者自ら今日はどうだったか、と聞いてくれる場面もあり興味を抱いていた。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2024年度活動報告書

八王子西片倉雲母保育園



#### テーマ【 建物（積み木） 】

##### 設定した理由・背景

考える力や協力し合う力が育ち、遊びの中でも立体物を作ることを楽しんでいるため、さらにスケールの大きいものや、複雑な立体物の作成に挑戦してほしいと感じたため。

##### 用意した環境設定

- ・ カプラ ・ 様々な家の形の写真集 ・ メモ帳

#### 活動のあゆみ

- ・ 12月：カプラを用意する。  
3グループを作る。
- ・ 12月～1月：家について調べる。
- ・ 1～2月：制作活動開始  
制作の様子を記録する。

#### ※探究活動の実績※

どんな建物が周りにあるか、何でできているのか、昔建てられた建物はどのように作ったのか、という問いから探求を始めた。

↓ 戸外で建物を探し、建築材料は何か、なぜ建物は簡単に壊れないのかと疑問が出た。身近な建物でも意識してみることは少なかったため、実際に家を見に行くと作り方に疑問を感じたり、形に悩んだりしている場面もあった。ピラミッドは斜めなのになぜ壊れないのかと声掛けをしたところ、昔の人は土で木をくっつけ建物を作っていたのではないかという意見が出た。実際に園にあるものを使ってどうすれば自分たちで作れるかを考察し、カプラにたどり着いた。

一人ずつカプラで作ってみたい設計図を書いて発表した。チームに分かれ、作りたい建物を決めると、何の材料で作ろうか、壊れない形かをみんなで考え、作りたい家に必要なものを紙に書きだした。実際にカプラを使って建物を作成すると倒れてしまうことがあり、どうしたら倒れないかを話し合うと、粘土を付けるという案が出た。

実際に作っていくと、子どもたち同士で試行錯誤し、組み立て方や形にこだわるようになっていた。どうしても5歳児の意見が強く出やすかったため、4歳児も意見を出しやすい方法を保育者が提示していくと、5歳児が率先してリードし、4歳児が意見を出しやすいような環境を作るようになっていた。



どんな建物にしようか悩んでいて、話に入れない子もいる。



グループをさらに小さくしてどんな建物にしようか話し合っている最中



組み立て方を友だち同士で声をかけあいながら工夫と試行錯誤を繰り返しています。

## まとめ

意見を出し合っていく中で、建物という難しい題材でも積極的に調べようとする場面が見られていた。タブレットで調べていくと「こんな建物内か」「この建物はどうやって作っているのだろう」と自ら問いかけて調べていく場面も見られていた。一方で話し合いに参加しにくい子どももいて、どうすれば意見を吸い上げていけるのかを職員同士で考えていった。小グループを更に分けて少人数にして意見を言いやすい環境を作っていた。するとどんな建物を作りたいのか意見がまとまるようになった。そこから実際に建物を見ようと案も出たため、散歩のときに見に行くことにした。

レンガ同士の接着部に着目し、「粘土を挟んだら倒れないかもしれない」という意見が出たときに子どもの着眼点の広さを感じた。子どもの発見や着眼点をしっかりと拾い上げていくことで更に探求に繋がれると思った。

探究活動を通して物事に対して集中する力を身に付けていけると感じられたので、日々の生活の中で向けるべき着目点をしっかりと伝えて、子どもの集中力を高めていきたいと感じた。

子どもが建設したものを写真で見たり、話したりしているようで、様々な形の建物の話をしている子どもの姿に驚かされていた。